

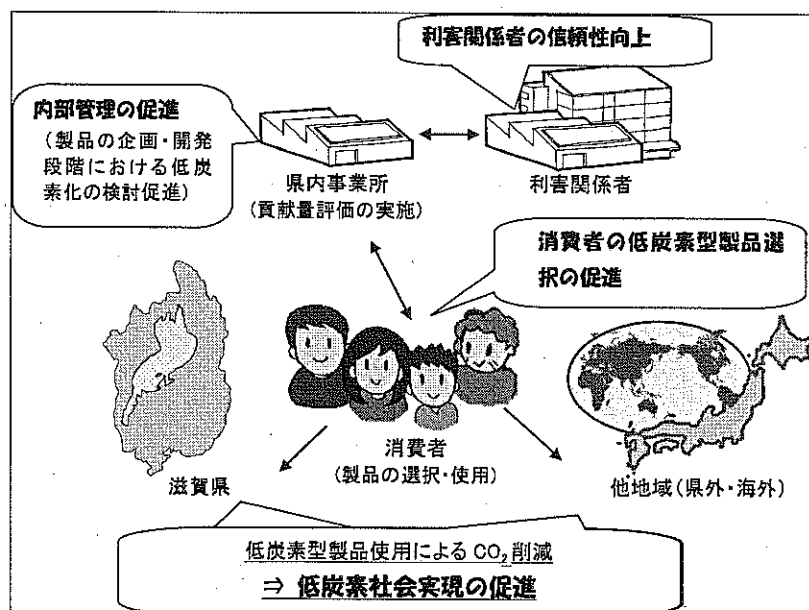
製品等を通じた貢献量評価 手法の検討状況

製品等を通じた貢献量进行评估する目的



■ 貢献量評価する目的

低炭素社会を構築するためにどのような製品等を生み出したのかの視点で、県民等による事業者の活動の評価を可能にし、「低炭素社会づくりに貢献する事業者の製品の選択・使用を通じた応援等につなげる」こと。



製品等を通じた貢献について

▶製品等を通じて貢献するとは

省エネ効果の高い製品・サービスや再生可能エネルギーを活用する製品などを生み出すことで、それらが無い場合と比べて、使用段階も含めた社会全体での温室効果ガス排出量を削減すること。

▶県内事業者の状況(CSR等に見られる“貢献”の記載状況)

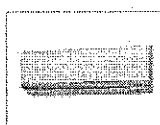
条例に基づく事業者行動計画制度の義務対象の約1割(約30事業所)で、製品の使用による省エネ効果を記載。

(CSR等に見られる具体例)

- ①再生可能エネルギー活用機器
太陽光発電の生産など



- ②省エネ家電等
冷蔵庫、エアコンなど



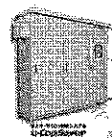
- ③低燃費な車、航空機(用素材)
エコカー、炭素繊維など



- ④省エネ住宅
断熱材、遮熱塗装など



- ⑤省エネ型の産業用機器
高効率冷温水機など



滋賀県製品等を通じた貢献量評価手法検討会の概要

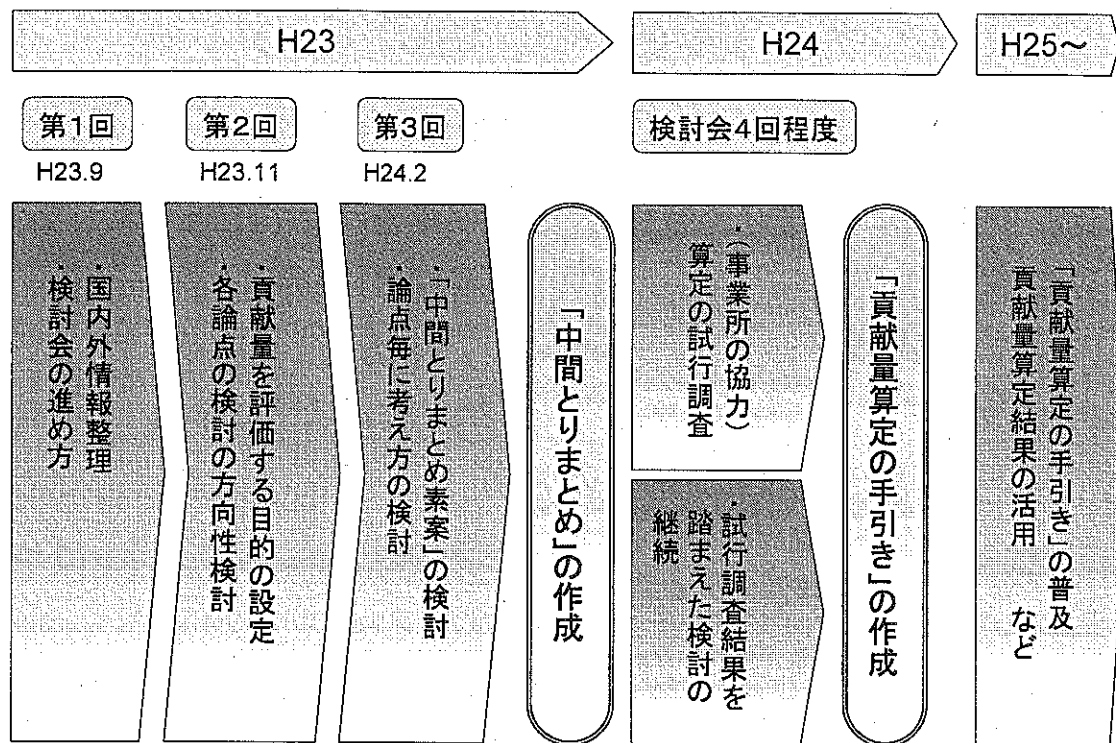
検討会の役割

✓製品の生産等を通じて他の者の温室効果ガス排出削減に寄与する取組(製品等を通じた貢献)の効果について、自主評価を新たに行おうとする事業者にとって参考となる定量的な評価手法を検討し、併せてこれに関連する情報の収集整理を行う。

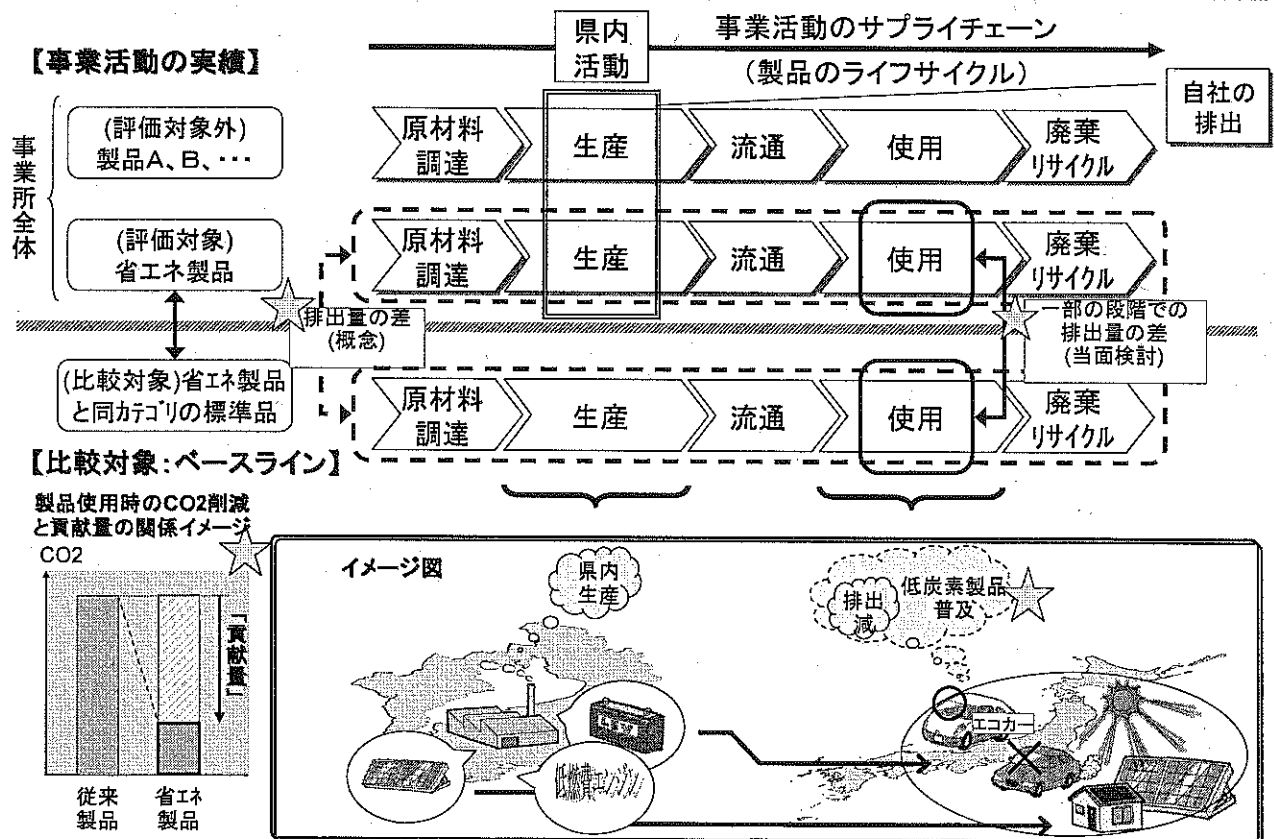
検討会委員

仁連 孝昭(座長)	公立大学法人滋賀県立大学 副学長
笠坊 美紀	東レ(株)瀬田工場 環境・エネルギー開発センター企画推進室
橋井 亨	京セラ(株)滋賀蒲生工場 環境安全部環境課
栢山 和紀	パナソニック(株)アプライアンス社 環境推進グループ 企画チーム
竹内 正剛	ダイハツ工業(株) 環境室
橋本 征二	立命館大学理工学部環境システム工学科 教授

貢献量評価手法検討の進め方



製品等を通じた貢献量評価のイメージ



製品等を通じた貢献量評価の基本的考え方

■貢献量評価の対象に想定する事業活動

- ✓ 使われることによって社会全体で温室効果ガス排出削減に繋がる製品・技術やサービスを生み出す事業活動を広く想定。
- ✓ 県内産業の特徴である製造業では、以下の活動を想定。
 - ・省エネ製品等もしくはこれに組み込まれた技術の生産
 - ・省エネ製品等もしくはこれに組み込まれた技術の研究開発
 - ・省エネ製品等の生産プロセス技術の確立

■部品・素材の生産を行う事業活動の評価

- ✓ 部品・素材の生産による貢献量評価について、各業界で検討されている考え方、もしくは次の考え方で算定する。
 - ①評価しようとする部品・素材を組み込んだ最終製品と、従来品の部品・素材を組み込んだ最終製品との比較による算定
 - ②評価しようとする部品・素材を組み込んだ最終製品と、標準の最終製品と比較した結果に対して、当該部品・素材の寄与度で按分して算定
- ✓ 上記での算定が困難な場合は、部品・素材が組み込まれた最終製品等が社会にもたらす削減効果全量で把握する。
- ✓ ただし、削減効果全量で把握する場合は、製品等の生産に対する事業所の役割(どの機能に係る部品生産を行ったか、など)を記載することで関係を明らかにする。

《参考》貢献量評価に関する主な国内動向 (情報収集事例)

団体名	備考
(社)日本電機工業会 ●電気・電子製品の使用を通じた削減貢献量の算定方法について、国際標準策定に取り組んでいる。	本県検討会に参考資料の提供あり。
グリーンIT推進協議会 ●電子部品、ソフトウェアの性能向上と使用による社会の変化を通じたGHG削減効果算定を検討している。	経産省が主導して設置した団体。
(社)日本化学工業協会 ●化学製品の部品・素材の利用を通じた世界(ライフサイクル)でのGHG削減効果について、算定・評価を検討、取り組んでいる。	—
(社)日本自動車工業会 ●自動車の低燃費化によるライフサイクルでのGHG削減効果の算定を検討している。	—
環境省・経済産業省 ●サプライチェーン排出量の算定方法を検討する過程で、同算定方法の利用法として貢献量評価も議論している。	主眼は、排出量把握に関する国際標準準拠の検討。
川崎市 ●省エネ製品等のGHG削減効果について、計画書制度の中での反映方法を検討。製品・技術単位での評価事業を先行実施。	市域推進計画の目標は、貢献量をオフセットして評価。